

第19回日本作業療法教育学会のご案内

「作業療法教育の新しい話題」

- 会 期：2014年10月4日（土）～5日（日）
- 会 場：日本リハビリテーション専門学校 TIME PLAZA ISE（イセビル）
- 参加費：日本作業療法教育研究会会員 3,000円，非会員 4,000円
- 主 催：日本作業療法教育研究会
- プログラム

10月4日（土）12:30より受付

- 13:00～13:10 開会の辞
- 13:10～14:10 模擬授業
「作業療法概論」 講師 野藤弘幸（常葉大学）
- 14:20～15:00 模擬授業に関するディスカッション
- 15:10～17:10 一般演題

10月5日（日）

- 9:00～12:00 ワークショップ 体験・プレイバックシアター～作業療法教育への可能性を探る～
講師 小森亜紀（作業療法士・劇団プレイバックーズ）
※動きやすい服装でご参加ください。
- 13:00～13:40 WFOT education day 報告
報告者 島本良重（関西学研医療福祉学院），藤原瑞穂（神戸学院大学）
吉川ひろみ（県立広島大学）
- 13:40～14:30 WFOT education day に関するディスカッション
- 14:30～15:30 総会
- 15:30～15:40 閉会の辞

■演題募集

1 演題，発表10分，質疑応答5分とさせていただきます。詳しくは，演題応募規定をご確認ください。
申し込みと抄録締め切り 2014年7月1日（火）～2014年9月5日（金）

■参加申し込み

会場準備の都合上，参加をご希望される方は，件名を「第19回日本作業療法教育学会参加希望」としていただき，お名前，ご所属，ご連絡先住所と電話番号を9月12日（金）までに，下記までメールでお申し込みください。また，第1日目終了後に，会場近くで懇親会を予定しています。その出席の有無も合わせてご連絡ください。

■■演題申し込み・参加申込先■■

関西福祉科学大学保健医療学部 西井正樹 E-mail:mnishii@fuksi-kagk-u.ac.jp

※メール到着後，受付メールをお送りいたします。ご確認ください。



交通アクセス

会場 日本リハビリテーション専門学校
TIME PLAZA ISE（イセビル）
東京都豊島区高田 3-6-18

- JR 山手線・西武新宿線「高田馬場駅」早稲田口より
徒歩約7分
 - 東京メトロ東西線「高田馬場駅」7番出口より徒歩約5分
- 第19回日本作業療法教育学会演題募集**

【演題応募規定】

1. 演題応募内容について

作業療法教育の学術的発展，教育者の資質と技能の向上に寄与する演題を募集します。

2. 倫理的事項について

最大限，倫理的な配慮を行って下さい。関係機関の倫理審査委員会などの承認を得た場合は，そのことを記載してください。

3. 著者について

著者が，作業療法士である場合は，本会会員であることを条件とします。なお，著者の数は原則として5名までとします。

4. 抄録の長さについて

抄録の長さは，本文，文献，図・表合わせて，A4用紙2頁以内とし，図・表は明瞭なものを使用して下さい。

5. 執筆要領について

後出の「執筆要領」に従って下さい。

6. 採否について

原稿の採否は本学術集会委員会において決定します。場合により，加筆，修正をお願いすることがあります。なお，所定の枚数を超過した抄録は採用しません。

7. 演題の応募について

発表希望者は，①代表者氏名，②所属，③連絡先(郵便番号，住所，電話，e-mail アドレス)を明記の上，抄録原稿を添付し，件名は，「第18回日本作業療法教育学術集会演題応募」として，E-mailにて，下記応募先までお送り下さい。

8. 応募先

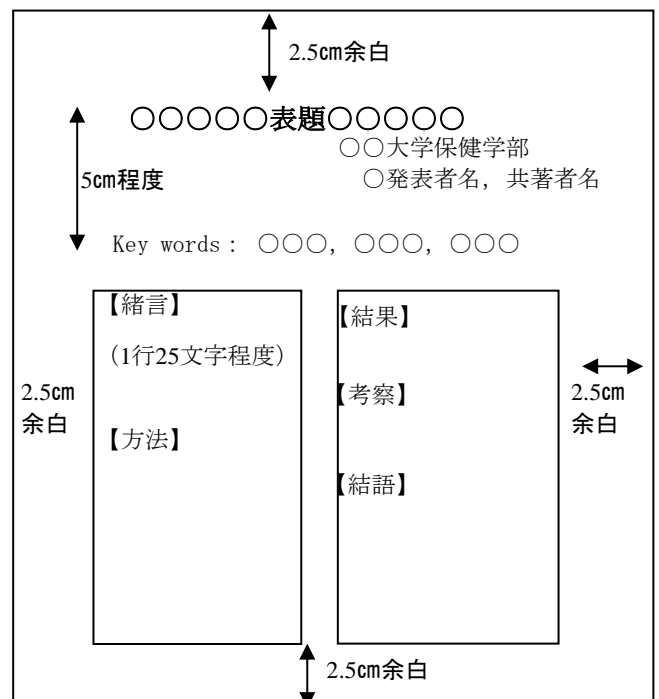
関西福祉科学大学 保健医療学部 西井正樹

E-mail: mnishii@fukusi-kakg-u.ac.jp

【執筆要領】

1. 原稿は全て横書きとして下さい。用紙は，A4用紙2枚以内とします。MS-Word2007/2010 ファイルで作成して下さい。
2. 文字は全て明朝体を使用して下さい。
3. 表題頁には，表題 (15ポイント，太字)，所属・著者名 (5名まで)・key words (3つまで)を10.5ポイントで記載して下さい。発表者名に○印をつけて下さい。抄録の本文は，10.5ポイントで作成し，【緒言】，【方法】，【結果】，【考察】，【結語】が明らかになるように小見出しをつけて下さい。
4. 書式は，2段組みで，1行25文字程度で，余白は，上下左右ともに，2.5cmを空けてください。行数は自由とします。
5. 文章表現は現代かなづかいとし，数字は算用数字，数量は国際単位系 (SI 単位) 記号を用いて下さい。(例；m,cm,mm,ml,kg,cm² など)。
6. 図表の数は自由としますが，できる限り明瞭なものを使用して下さい (白黒印刷です)。
7. 引用・転載にあたって，著作権についての配慮を行って下さい。

(抄録作成例)



【模擬授業概要】

作業療法概論シラバス

第19回日本作業療法教育研究学術集会 模擬授業資料

常葉大学 野藤弘幸

<p>テーマ及び 授業の到達目標</p>	<p>テーマ： 1. 人間－作業－環境の関係を様々な視点からとらえて、作業が健康に及ぼす影響について学ぶ。 2. 人間－作業－環境に関する作業療法の諸理論と、作業療法で作業を用いる方法論の基礎を身につける。</p> <p>到達目標： 1. 作業の意味を具体的に説明できる。 2. クライアント中心のリーズニングを説明できる。 3. 人間－作業－環境の関係を説明できる。 4. 地域に根ざした作業療法を行うために重要となる考え方を説明することができる。</p>
<p>授業の概要</p>	<p>人間－作業－環境に関する作業療法の諸理論と、作業療法で作業を用いる方法論の基礎を身につける。作業療法の歴史と現代のパラダイム、作業の定義、作業療法の介入過程、作業療法のリーズニング、作業療法の概念的実践モデル、人間－作業－環境と健康の関係、身体・精神・発達・高齢期の各障害領域の作業療法の概略、作業療法の専門職同一性、以上の項目について行う。</p>
<p>授業の計画と内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の歴史と現代のパラダイム I (パラダイムとは何か、米国の作業療法のパラダイム転換) 2. 作業療法の歴史と現代のパラダイム II (日本の作業療法のパラダイム転換、現代作業療法パラダイム) 3. 作業の定義(作業の辞書的定義、作業療法における定義) 4. 作業療法の介入過程(クライアント中心、協業) 5. 作業療法のリーズニング 6. 作業療法の概念的実践モデル I (生体力学的モデル、運動コントロールモデル、感覚統合モデル) 7. 作業療法の概念的実践モデル II (カナダ作業遂行モデル、人間作業モデル) 8. 作業療法の概念的実践モデル III (認知モデル、認知－知覚モデル、その他) 9. 人間－作業－環境と健康(文化、作業形態、健康、生活物語) 10. 地域に根ざした作業療法の実践(トップダウンとボトムアップアプローチ) 11. 身体障害領域の作業療法の実際 12. 高齢期障害領域の作業療法の実際 13. 発達障害領域の作業療法の実際 14. 精神障害領域の作業療法の実際 15. 作業療法の専門職同一性

【WFOT Education Day 報告概要】

Education Day の目的

- カリキュラムデザインの変革を検討すること
- 専門職に求められる、また、学生に求められるコンピテンシーに関してカリキュラムの形成と適用についてよく理解すること
- カリキュラム開発について世界の状況を調べること
- 参加者がお互いの知識と経験を共有すること
- 共通関心事項に係る国際的ネットワークを構築すること

スケジュール

- コンピテンシーについて：Hanneke van Bruggen（オランダ）
- 社会におけるコンピテンシー基盤型教育の重要性：Elelwani Ramugond, Roshan Galvaan（南アフリカ）
- 医療従事者にとってのコンピテンシー基盤型教育の重要性：Lorie Shimmell, Debra Stewart（カナダ）
- 小グループセッション
- 将来の方向性：Nils Erik Ness（ノルウェー）

小グループセッションのテーマ

1. 養成校教育および資格取得後のコンピテンシー，Thelma Burnett（豪州）
2. 地域作業療法のためのコンピテンシー — 地域作業療法へのシフトに対応する教育とは，Liliya Todorova（ブルガリア）
3. 地域基盤型教育により作業療法教育を強化する方法，Sandra Galheigo（ブラジル）
4. 「地域で考え，地球規模で行動する」 — コンピテンシーおよびその現状との関連性，Hetty Fransen（チュニジア）
5. 地域作業療法のためのコンピテンシー，Sarah Kantartzis（英国）
6. 臨床実習からみて—コンピテンシーの評価と変革の促進，Kit Sinclair（香港）
7. 作業療法教育課程における問題基盤型学習，Daleen Casteleijn（南アフリカ）
8. 人権と社会変革をめぐる作られたコンピテンシー，Chantal Christopher（南アフリカ）
9. OT 初心者のコンピテンシーのスーパービジョン，Hua Beng Lim（シンガポール）
10. 教科中心(subject-centered)学習:OT教育課程作成のための概念枠組み, Barb Hooper（米国）

参考資料

- 1) Burnett, T., et al, (2008): Entry Level competencies for Occupational Therapists. WFOT. <http://www.wfot.org/wfot2014/pdf/Entry_Level_Competencies_Draft.pdf>
- 2) Canadian Association of Occupational Therapists: Profile of Practice of Occupational Therapists in Canada. 2012. <<http://www.wfot.org/wfot2014/pdf/CAOT%20OT%20profile%202012.pdf>>

【ワークショップ概要】

プレイバックシアター（以下、PBT）は、ある人の実際の体験をインタビューし、その場で劇として再現する独創的な即興劇です。1975年にアメリカのJonathan Foxによって生み出されました。観客の中の誰かがテラー（体験を語る人）の席へ移動し、司会進行役のコンダクターのインタビューをうけて個人的体験を語ります。それを数名のアクターとミュージシャンが数分の劇として再現します。

Foxは、訓練過程にあるセラピストにとってPBTの体験が有用であると述べています。私自身、学生時代より作業療法とPBT双方に関わってきた経験から、PBTで培われるヒューマンスキルが作業療法実践において役立つことを感じてきました。そして、作業療法教育の中でPBTを活かすことができると考えるようになりました。下記は、予想される効果と、活用場面の例です。

作業療法教育におけるPBTの効果

1. テラー体験
 - ①作業療法士が抱える個人的な感情をケアする
 - ②作業療法士としての視野を広げ、洞察力を深める
2. アクター体験
 - ①対象者の話を傾聴する能力を高める
 - ②同僚や他職種とのチームワークがとれるようになる
 - ③不確かな状況でもやり遂げる能力を得る
3. 観客体験
 - ①共感能力を高める
 - ②相手の立場で物事を推察する能力を高める
 - ③作業療法士を継続する動機を強める

作業療法教育への活用

1. 基本的な能力のトレーニングとして
2. 実習前の心理的準備として
3. 臨床実習後のフォローとして
4. 生涯学習として

本ワークショップの目的は、①ワークショップ形式のPBTを体験し、PBTとは何かを知ること、②様々な役割（テラー、アクター、観客）を経験し、その効果を感じることで、最後の質疑応答では、その体験をもとに、作業療法教育に導入するメリット、課題や疑問などについて、共に考えます。

- 1) 小森亜紀: 作業療法教育におけるプレイバックシアターの可能性. OT ジャーナル 46: 335-340, 2012.
- 2) 宗像佳代: プレイバックシアター入門. 明石書店, 2006.
- 3) 劇団プレイバックーズ <<http://www.playback-az.com>>